

■ 会社概要 (2020年12月31日現在)

社 名 株式会社構造計画研究所
 英文商号 KOZO KEIKAKU ENGINEERING Inc.
 設立年月日 1959年5月6日
 資本金 1,010百万円
 決算期 6月
 上場市場 東京証券取引所 (JASDAQスタンダード)
 事業内容 エンジニアリングコンサルティング /
 プロダクツサービス

■ 事業所所在地

本 所 〒164-0012 東京都中野区本町4-38-13
 日本ホルスタイン会館内
 本 所 新 館 〒164-0011 東京都中野区中央4-5-3
 中野坂上別館 〒164-0011 東京都中野区中央1-38-1
 住友中野坂上ビル5F・10F
 名古屋支社 〒450-6325 愛知県名古屋市中村区名駅1-1-1
 JPタワー名古屋25F
 大阪支社 〒541-0047 大阪府大阪市中央区淡路町3-6-3
 御堂筋MTRビル5F
 福岡支社 〒812-0012 福岡県福岡市博多区
 博多駅中央街8-1 JRJP博多ビル8F
 熊本構造計画研究所 〒869-1235
 熊本県菊池郡大津町室1315
 上海駐在員事務所 〒200120 中華人民共和国上海市浦東新区
 世紀大道100号 上海環球金融中心15F
 KKE SINGAPORE PTE. LTD. Level 11, Marina Bay Financial Centre
 Tower 1, 8 Marina Blvd, Singapore 018981

■ 株式の状況 (2020年12月31日現在)

発行可能株式総数 21,624,000株
 発行済株式総数 5,500,000株
 株 主 数 3,649名

■ 株主メモ

事業年度 7月1日～翌年6月30日
 定時株主総会 毎年9月
 配当金受領株主確定日 3月31日、6月30日、9月30日及び12月31日
 基準日 6月30日
 株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
 特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社
 同 連 絡 先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
 東京都府中市日鋼町1-1
 (郵送先) 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号
 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
 TEL: 0120-232-711 (通話料無料)

公告の方法 電子公告により行う
 公告掲載URL <https://www.kke.co.jp> (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)



Innovating for a *Wise Future*



証券コード
 4748

第63期 第2四半期 株主通信

2020年7月1日～2020年12月31日

ヒト・モノ・コトをつなぐエンジニアリングで、
 社会をうごかすさまざまな仕組みを創出していきます。

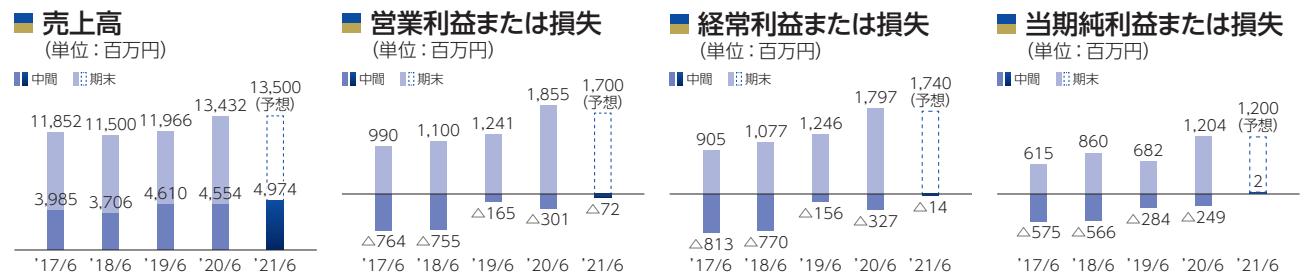
第2四半期累計期間の業績

当第2四半期累計期間の当社の業績は、売上高は49億74百万円（前年同期は45億54百万円）、営業損失は72百万円（前年同期は3億1百万円の損失）、経常損失は14百万円（前年同期は3億27百万円の損失）、四半期純利益は2百万円（前年同期は2億49百万円の損失）となりました。

当社の業績として、下半期に決算期を迎える顧客が多いことから、上半期と比較して下半期の売上比率が高い傾向があります。過年度においては、期末売上実績に対して第2四半期累計期間の売上実績が占める割合は3割台で推移しております。当年度におきましては、通期の売上業績予想に対して当第2四半期累計期間の売上高が占める割合は39.2%となっております。

受注高及び受注残高に関しては、前事業年度から繰り越された受注残高に加え、前年同四半期会計期間を上回る31億82百万円（前年同期は29億71百万円）の受注を獲得したことで、77億71百万円（前年同期は85億35百万円）の受注残高を確保しております。上半期に受注した案件を下半期に着実に売上計上していくとともに、既存顧客を中心とした受注獲得に努めてまいります。

なお、期末の業績見通しを精査した結果、売上高及び各利益ともに当初計画を上回る見込みとなったため、2021年2月25日に通期業績予想の修正を公表しております。



セグメント別の概況

■ エンジニアリングコンサルティング

対面業界におけるシステム開発での投資意欲が引き続き旺盛な状況のため、住宅メーカー向けシステム開発業務、建設・製造業向けシステム開発業務が堅調に推移しました。また、構造設計コンサルティング業務も引き続き堅調に推移していることから、当第2四半期累計期間は前年同期と比較して増収増益となりました。



■ プロダクツサービス

米国Twilio, Inc.のクラウドベースメール配信サービスや米国LockState, Inc.の入退室管理クラウドサービスが順調に販売を拡大しました。また、設計者向けCAEソフト、粒子法流体解析ソフトの販売が堅調に推移しています。この結果、当第2四半期累計期間は前年同期と比較して増収増益となりました。



■ 四半期貸借対照表 (要旨)

(単位:千円)

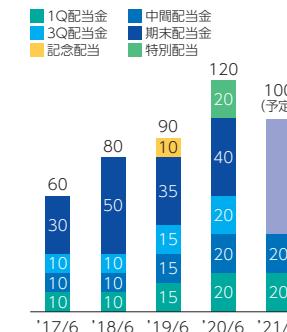
	前事業年度 2020年 6月30日現在	当第2四半期 2020年 12月31日現在
(資産の部)		
流動資産	5,824,136	4,862,042
現金及び預金	2,014,232	627,416
受取手形及び売掛金	1,952,397	1,591,657
仕掛品	678,208	1,302,191
その他	1,179,298	1,340,778
固定資産	9,108,011	9,298,884
有形固定資産	5,119,390	5,060,915
無形固定資産	430,377	394,000
投資その他の資産	3,558,243	3,843,968
資産合計	14,932,147	14,160,927
(負債の部)		
流動負債	4,483,191	3,400,539
買掛金	282,458	270,382
短期借入金	—	360,000
1年内返済予定の長期借入金	694,332	544,332
その他	3,506,401	2,225,824
固定負債	4,184,101	4,868,883
長期借入金	1,637,839	2,278,173
社債	250,000	200,000
株式報酬引当金	93,561	114,598
退職給付引当金	2,066,986	2,154,888
役員退職慰労引当金	40,000	20,540
資産除去債務	83,583	97,567
その他	12,130	3,116
負債合計	8,667,292	8,269,423
(純資産の部)		
株主資本	6,259,169	5,823,041
資本金	1,010,200	1,010,200
資本剰余金	1,159,926	1,325,209
利益剰余金	4,760,673	4,345,431
自己株式	△671,629	△857,799
評価・換算差額等	5,685	68,462
純資産合計	6,264,855	5,891,504
負債純資産合計	14,932,147	14,160,927

■ 四半期損益計算書 (要旨)

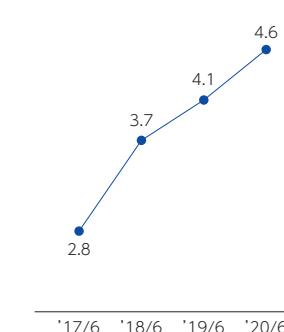
(単位:千円)

	前第2四半期累計 (2019年7月1日から 2019年12月31日まで)	当第2四半期累計 (2020年7月1日から 2020年12月31日まで)
売上高	4,554,589	4,974,502
売上原価	2,153,974	2,386,095
売上総利益	2,400,614	2,588,406
販売費及び一般管理費	2,701,934	2,660,742
営業損失 (△)	△301,320	△72,335
営業外収益	9,875	75,014
営業外費用	36,040	17,654
経常損失 (△)	△327,484	△14,975
特別利益	—	26,068
特別損失	13,024	67,184
税引前四半期純損失 (△)	△340,509	△56,091
法人税、住民税及び事業税	4,066	4,298
法人税等調整額	△94,643	△62,815
四半期純利益又は 四半期純損失 (△)	△249,932	2,424

■ 配当の推移 (単位:円)



■ 配当利回り (単位:%)



(注) 当社は2017年6月期(第59期)より、四半期配当制度を実施しております。

サステナブルな社会の実現に向けて～木造建築に関する取り組み～

グリーンな社会を目指す動きが世界的に加速している中で、世間の関心が高まりつつある木造建築に対する当社の取り組みについてご紹介します。

木造建築を取り巻く情勢

木造建築とは、柱や梁、壁といった建築を構成する要素が木材から成る建築物を指します。日本では2010年に「公共建築物等における木材利用の促進に関する法律（公共建築物等木材利用促進法）」が制定され、国が率先して木材利用に組み込む基本方針が示されました。2016年からは新材料として「CLT」と呼ばれる木質系材料が告示化され、一般利用できるようになっています。CLTとはCross Laminated Timberの略称で、ひき板（ラミナ）を並べた後、繊維方向が直交するように積層接着した木質系材料です。

当社の取り組み

2011年に木造住宅用の制振装置開発に関する研究開発業務に従事して以来、木質構造に関する構造設計およびコンサルティング業務に取り組んでまいりました。新材料CLTの特徴を利用した構法の開発、制度設計から、実務設計、実験コンサルなど、当社の技術を活かした新たな価値創造にも取り組んでいます。2020年12月には木製パネル耐震壁に関する特許を取得しており、本工法を適用した木造建築の実現にも取り組んでいく予定です。



木材パネルを市松状に組み合わせた耐震壁を考案。デザイン性・採光性・施工性の高い建築物の実現が可能に。



■ 担当者コメント

構造設計2部
木質創造設計室
篠原 昌寿

2020年8月、木造分野での新たな価値創出を目的として「木質創造設計室」を新設。「木質に拘りを持ちながらも木造に留まらず、新たな価値創出に向けて、創造に挑戦する設計を目指したい」とありがたい姿を掲げています。KKEの幅広いエンジニアリングを通じ、サステナブルな社会の実現に貢献してまいります。

情報断絶を起こさない安全・安心な社会を目指して

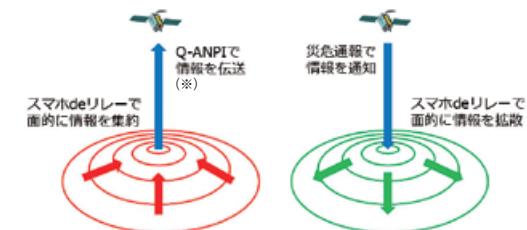
2011年3月の東日本大震災発生時、携帯電話やスマートフォン等のモバイル端末が繋がらない状況が生じ、各地で情報断絶が起こるといった通信の脆弱性が浮き彫りになりました。情報断絶を起こさない安全・安心な社会の実現に向けた当社の取り組みとして「スマホdeリレー[®]」をご紹介します。

スマホdeリレー[®]とは？

スマホdeリレー[®]は、スマホ同士で情報をリレー（伝達）することでいつでも簡単にネットワークを作ることができる技術で、東北大学の加藤寧教授・西山大樹教授が考案したアイデアを当社が実用化・改良し、実現しました。スマホ同士の通信にはBluetooth[®] Low Energy (Bluetooth LE) を利用しています。

近年の取り組み

内閣府と連携し、通信途絶に陥った地域の被災状況をいち早く把握できるシステムの実現に取り組んでいます。スマホdeリレー[®]の技術を使って安否情報や被災状況を面的に集め、内閣府が運用する測位衛星「みちびき3号機」で災害対応機関に中継するという仕組みです。今年2月から全国24自治体で実証実験を開始しています。



「スマホdeリレー[®]」と「みちびき」の連携イメージ

※「Q-ANPI」は、災害時における避難所の情報を「みちびき」経由で管轄局に収集し、避難所運営を支援する衛星安否確認サービス



無線通信の代表的な規格であるBluetoothが運営するブログに当社所員が受けたインタビューが掲載されました。記事は下記よりご覧いただけます。

<https://www.bluetooth.com/blog/ja-jp-how-bluetooth-technology-enables-reliable/>



■ 担当者コメント

情報通信営業部 西浦 升人
通信工学部 大内 夏子

今後の展望として「スマホdeリレー[®]」の社会実装を進めるために、放送や交通など社会インフラ分野の社外パートナーとの連携も加速させていきたいと考えています。これからも引き続き、人々の安心を担保できる社会の実現を目指し取り組んでまいります。

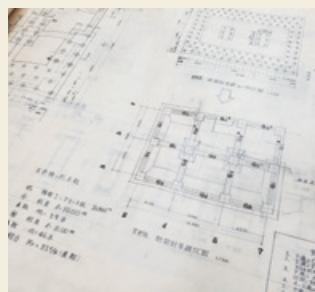
History Topics

小田原城天守閣復興60年

今年、小田原城の天守閣が復興60年を迎えます。1959年に構造設計事務所として設立した当社は、戦後の城郭復興ブームの波に乗り、数多くの天守閣再建に携わりました。小田原城天守閣もその一つで、日本近世建築史に多大な功績を残した建築史学者の藤岡通夫先生とともに、当社が1960年に天守閣の構造設計を担当しました。

計算尺や手回し計算機等を用いた手計算が当たり前であった当時、天守閣の構造計算を行うことは多大な労力を要したと推察されます。この数か月後に当社創業者である服部正が単身でアメリカへと渡り、6か月間の滞在の末、日本では初めて構造計算にコンピュータを導入することを実現させました。

そこにあったのは、「コンピュータの活用により人を単純な作業から解放し、考え創造することに注力したい」という技術者としての想いであり、今も当社が大切にしている考えの一つでもあります。



構造計算書原本の一部



裏面

天守閣屋根裏に取り付けられていた棟札

現役構造設計者の視点から 構造設計2部 部長 / 石塚 広一

構造計算書など当時の資料を読むと、地震のリスクに備えて現地の地質調査を入念に行ったことや、設計の変更に迅速に対応した痕跡が窺え、先人から学ぶ点が数多くありました。

現在、私たち構造設計部は、「伝統木造設計への挑戦」を一つの目標として掲げています。夢とロマンを与える歴史的建造物の再建・復元にも貢献できるよう努めてまいります。



構造計画研究所のロゴマーク

私たち構造計画研究所の象徴であるロゴマーク。

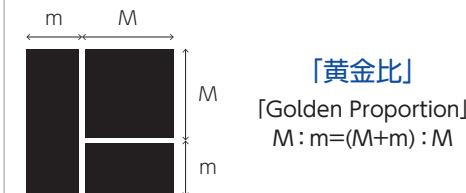
このマークの制作背景には創業者服部正の先見性や秘めた想い、人と人のご縁がありました。

ロゴ誕生の舞台、1970年の大阪万博とスイス館

1970年、アジア初の万国博覧会が大阪で開催されました。多くのパビリオンが建設されましたが、その中でも群を抜いて際立っていたスイス館の「光の木」がロゴ誕生のきっかけとなります。

3万個以上の電球を用いた大きな木のオブジェのようなデザインの「光の木」の制作にあたり、スイスの建築家より日本から構造設計者の協力を仰げないか、という依頼があり、建築家の村口昌之先生が創業者服部正を紹介してくださいました。スイス館での仕事を通じて、服部は村口先生と意気投合し、当社のシンボルとなるロゴマークの制作を村口先生に依頼しました。

デザインコンセプトは、古来より普遍的に国境を越え、人々を魅了する「黄金比」。「K」をイメージしたマークですが、ここには2つの意味が込められています。1つは構造計画研究所のK、もう1つは起業家・経営者としての想いから「黄金比」と掛けて「稼ぐ」のK=ビジネスの成長、という意味からの発想でした。



黄金比とは

13世紀頃に発見されたフィボナッチ数列から展開した比率。自然界に普遍的に存在しているリズムを表す式で、万物の美の基準とも言えます。



Present

ロゴをあしらった特製風呂敷

この構造計画研究所のロゴマークをあしらった特製風呂敷を製作しました。今回は抽選で3名の方にプレゼントさせていただきます。裏表紙に記載のアンケートにご入力いただいた方から、抽選にてお送りいたします。



紺と白の市松模様にロゴマークが入っています